

例) 抄録作成

造影 CT 検査に対する安全性向上の取り組み

○太田佳孝 松田貴匡 鎌田雅義

岩手医科大学附属内丸メディカルセンター

【背景・目的】医政発 0709 第 7 号による、診療放射線技師の業務範囲の拡大の中に静脈路に造影剤注入装置を接続する際に静脈路を確保する行為が含まれており、現在告示研修を開催している。一方、造影 CT 検査をより安全に造影検査を施行するため、将来的な静脈穿刺も見据え、ハードウェア、ソフトウェアに対し日々見直しの必要性がある。

今回、体幹部造影 1 相撮影を対象に院内運用の見直しを行ったので検証報告する。

【方法】見直し後、造影剤注入時に両腕下垂位にて注入し、造影時の患者とルートを看護師とダブルチェックし、撮影室内からもインジェクターの注入圧力が確認できるよう、web カメラにてインジェクター画面をモニター出来るようにした。

上記運用にて記録された最大圧力を記録し、両腕挙上位運用と統計的解析を行った。

比較検証対象：

- ① 使用造影剤 300mgI/ml 1.5ml/sec, 95ml 注入 生食後押しなし 両腕下垂位
- ② 使用造影剤 300mgI/ml 1.5ml/sec, 95ml 注入 生食後押し 20ml 両腕挙上位

【結果】インジェクターの注入時最大圧力は下垂位にて $1.78 \pm 0.29 \text{kg/cm}^2$ (n=47)、挙上位にて $2.16 \pm 0.41 \text{kg/cm}^2$ (n=403) であり、挙上位に比し、下垂位の方が注入圧低値であった (P<0.05) 撮影室内からも圧力表示が見える事で異常に早く気づく事例も経験した。